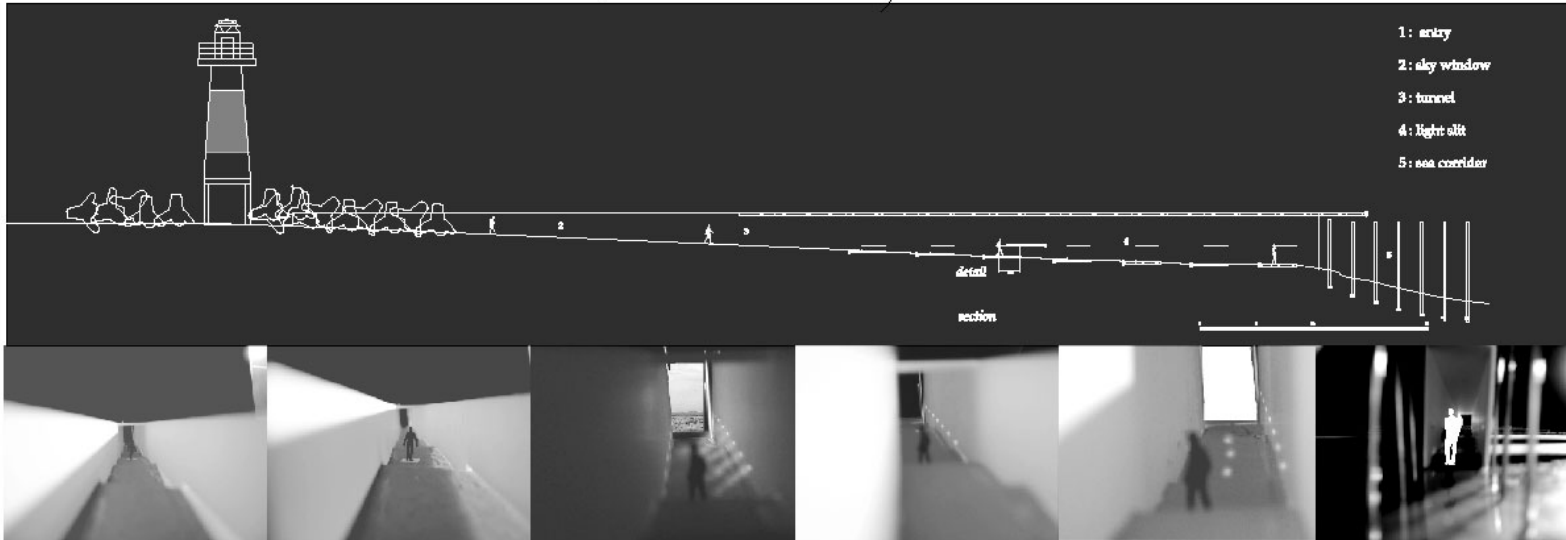
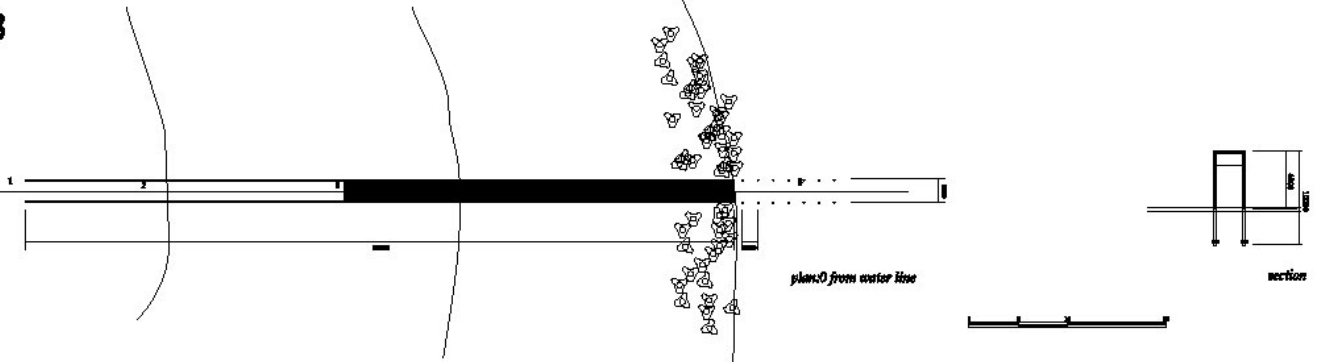


# SITE 3



## SITE 3

始め腰の高さにある壁は自然の要素をさえぎることなくそこにある。徐々に進むにつれその壁は要素を切り離していく。進む先には空間になっていくことで人の歩むことによる視点の変化を作り出す。そしてスリットからの光とともにその歩みを進める。そして道は消え、その柱だけが意識として残る。

## SITE 4

### SITE 4

対岸にある二枚の大きな壁は意識として残された道の具現化を図る。この壁にはスリットと壁の厚みの変化による視点の変化を作り出す。

